

白藍塾オリジナル

2016入試小論文分析&解答のヒント

2016年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

●慶応・法学部

課題文は、歴史学者トインビーの文明観について説明した文章だ。ここ数年では、読みやすいほうだろう。簡単にまとめると、次のようになる。

「トインビーによれば、現在の世界では西洋文明が圧倒的に優勢だが、やがて非西洋文明が主導権を奪うだろう。世界は一つになり、世界文明が出現するが、それは西洋化を進めることで非西洋文明がやがて力をつけ、世界史の主役になるからだ。なぜそう言えるのか。まず、西洋の優位を支えてきたナショナリズムが行き詰まり、西洋諸国が国際社会で主導権を握れなくなる。同じく、西洋発のテクノロジーは、他の文明でも容易に修得できるため、その点でも西洋は優位を保てない。その上、歴史の鉄則として、西洋が自分の優位性にあぐらをかいて油断しているうちに、実力をつけた非西洋に逆転されるだろう」。

設問には、まず「トインビーの文明観とその根拠を400字程度でまとめ」とあるが、これはほとんど課題文の全文要約。したがって、以上の要約を字数に合わせてふくらませればよい。

次いで、「世界文明は『来ようとしている』という指摘」について、具体例に触れつつ論じることが求められている。問題提起は簡単。「世界文明が『来ようとしている』と本当に言えるのか」「世界文明は本当に成り立つのか」といった問いでよいだろう。

イエス・ノー、どちらで答えることも可能。文中の「西洋化」は、今だとグローバル化と言い換えることもできるかもしれない。その観点からすると、グローバル化によって国境の意味が薄れ、人やモノの移動が激しくなっている現状を、世界文明の始まりとして肯定的に論じることができるだろう。

ただし、現在の国際情勢を考えると、ノーで答えるほうが書きやすいかもしれない。世界中で西洋化(=グローバル化)が進んでいるのは確かだが、それが世界を一つにするどころか、逆にイスラム過激派などの抵抗を招いている。そうした現状を踏まえて、西洋化がかえって諸文明の対立を深めていると論じることができる。

今年度は、法・人権に直接かかわる問題ではないが、国際政治をテーマにしている点で、法学部らしい出題と言える。しっかりと準備をしてきた受験生にとっては、それほど難しい問題ではないはずだ。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>